

平成 20 年
7 月 3 日

病害虫発生予報 7 月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう
平成 20 年度農薬危害防止運動実施中です（6/15～9/14）

< 目 次 >

． 今月の予報

【注意すべき病害虫】

| | |
|---------------------------------|---|
| 水稲：いもち病(葉いもち), 斑点米カメムシ類, イネツトムシ | 1 |
| ナシ：黒星病, ハマキムシ類, ハダニ類, ナシヒメシンクイ | 2 |
| ナシ, カキ：コナカイガラムシ類 | 4 |
| 果樹共通：カメムシ類 | 5 |

| | |
|--|---|
| 【その他の病害虫】 | 5 |
| 水稲, サツマイモ, ナシ, ブドウ, カキ, クリ, 夏ネギ, 夏秋ナス, 抑制トマト | |

． 病害虫ミニ情報

| | |
|------------------------|---|
| 7 月以降に発生する水稲病害虫の防除について | 7 |
| トマト黄化葉巻病について | 8 |

． 今月の気象予報

． テレホンサービス

029(226)5321

農薬登録速報については、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」
<http://www.maff.go.jp/nouyaku/> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（葉いもち）

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| - | やや少ない | 県下全域 |

[予報の根拠]

6月下旬現在、葉いもちの発生はやや少なく（表1）、BLASTAM によるいもち病の感染に好適な気象条件の出現頻度も低い。

いもち病の感染好適条件は、気温 20～25 で弱い降雨が連続する場合である。気象予報によると向こう1か月の気温は平年より高く、日照時間は多いと予想され、発生を助長する条件ではない。

BLASTAM：アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム

表1 葉いもちの発生状況（6月下旬調査）

| | 葉いもち発病度 | | | 発生地点率（%） | | |
|----|---------|-----|-----|----------|----|----|
| | 本年 | 前年 | 平年 | 本年 | 前年 | 平年 |
| 県北 | 0.0 | 0.1 | 1.8 | 3 | 7 | 28 |
| 鹿行 | 0.0 | 0.2 | 1.1 | 0 | 17 | 16 |
| 県南 | 0.0 | 0.0 | 0.3 | 0 | 0 | 10 |
| 県西 | 0.3 | 0.0 | 0.1 | 17 | 0 | 5 |
| 全県 | 0.1 | 0.1 | 0.5 | 5 | 5 | 14 |

[防除上注意すべき事項]

水田で、稲の葉色が濃い部分、置苗およびその周囲、水口などを観察し、初発の確認に努める。例年梅雨明けとなる7月下旬まで発生が増加するため、現在発生がみられないとしても、今後とも観察し確認を行う。

発生がみられるほ場では防除を実施する。なお、粒剤で防除する際は必ず湛水状態で薬剤を散布し、薬剤の効果や環境への配慮から1週間は止水して湛水状態を保つ。その後生育に応じた適正な水管理へもどす。

置苗は、いもち病の発生源となる。現在、万が一圃場に置苗がある場合には、直ちに水田から持ち出して処分する。

（p.7 病害虫ミニ情報参照）

2. 斑点米カメムシ類

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| 平年並 | 平年並 | 県下全域 |

(水稻 斑点米カメムシ類 続き)

[予報の根拠]

6 月下旬現在，水田付近のイネ科雑草において，ホソハリカメムシが 1 地点で確認され，クモヘリカメムシは確認されなかった。その他の斑点米カメムシ類の発生は平年並であった。

[防除上注意すべき事項]

農道や畦畔等のイネ科雑草は斑点米カメムシ類の生息場所となるため，除草に努める。ただし出穂期近くになってからの除草は，カメムシ類をほ場内へ追い込むことになるので，行わない。

出穂期～穂揃期に多数の斑点米カメムシ類を認めた場合は，防除を実施する。

幼虫の防除は適期に行う。幼虫の防除適期は予報 8 月号を参考にする。

(p . 7 病害虫ミニ情報参照)

3 . イネツトムシ

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| 平年並 | やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

6 月下旬には例年発生を認めないが，本年の調査では一部で発生を認めている。

[防除上注意すべき事項]

葉色の濃い水田や，移植時期の遅い水田では発生に注意する。

飼料イネでは，特に発生に注意する。

被害が大きくなる第 2 世代幼虫の発生は 7 月下旬からと考えられるので，7 月末～8 月初めに水田を観察し，幼虫が小さいうち（葉先が巻かれ始めた時期）に防除する。

(p . 7 病害虫ミニ情報参照)

水田において農薬を使用するときは，農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項を確認するとともに，止水期間は 1 週間程度とすること。

ナ シ

1 . 黒星病

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| - | 多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

6 月下旬現在，県下全域で発生が多い傾向である。葉での発生量は，全県で平年より多い。

また，果実での発生量は，県北地域でやや多く，県南及び県西地域では平年より多い。

本病は降雨により伝染するため，今後梅雨明けまでは発生を助長する気象条件である。

(ナシ 黒星病 続き)

[防除上注意すべき事項]

発病した葉及び果実は二次伝染源となるため、見つけ次第除去し、土中深く埋める。果実肥大盛期となる7月は、「幸水」果実への感染が再び盛んになるため、DMI 剤の散布を必ず実施する。

薬剤散布量は、10a 当たり 300 リットルを目安に、風圧及び走行速度を調整したり、縦横の井桁走行を行なうなど、かけむらのないよう丁寧に散布し、防除実施後は薬液が葉や果実に均等に散布できたかよく確認する。なお防除の際は、周囲への飛散（ドリフト）に十分注意して行う。

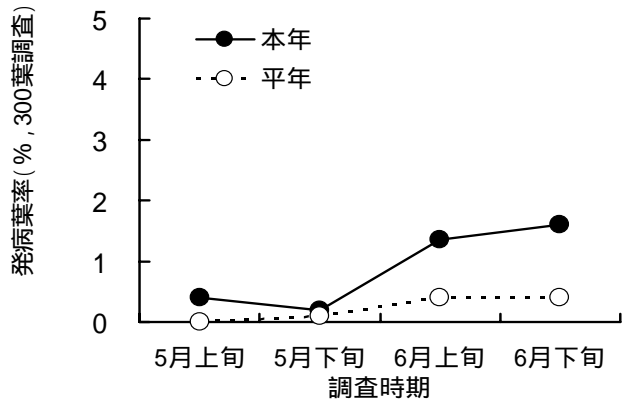
ほ場の周縁部や、枝葉が混み合ったところは、薬液がかかりにくいので、手散布等により補正散布を行う。

梅雨明けが遅いなど、7月下旬に降雨が多い場合は、果実への後期の感染を防ぐため、追加防除を行う。

【黒星病の発生経過】

病害虫発生予察注意報 第1号

(H20.5. 1)の発表後、5月下旬の調査では、本病の発生は減少しましたが、6月上旬以降は再び増加傾向にあります。今後は果実への感染増加を防ぐため、さらに防除を徹底していく必要があります。



葉における黒星病の発生推移

2. ハマキムシ類

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|------|------|
| 平年並 | やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

6月下旬現在、予察灯（笠間市、かすみがうら市）への誘殺数は平年並～やや多い。気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され、発生に適した条件である。

[防除上注意すべき事項]

徒長枝の葉を折り曲げて綴ったり、果実と葉が重なる部分を綴ったりする被害がないか注意する。枝が混み合っているところは特に注意して観察する。

発生が多いほ場では7月中旬に防除を行う。

3. ハダニ類

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|-----|------|
| 平年並 | 平年並 | 県下全域 |

(ナシ ハダニ類 続き)

[予報の根拠]

6月下旬現在，発生は認めないが，気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され，発生に適した条件である。

[防除上注意すべき事項]

ハダニ類は，発生が多くなると防除が困難となるため，発生初期に防除を行う。
薬剤抵抗性ハダニ類の出現を避けるため，同一系統の薬剤の連用は避ける。
カメムシ類およびシンクイムシ類を対象に合成ピレスロイド系剤を散布すると，ハダニ類やカイガラムシ類が増加する場合がありますので，合成ピレスロイド系剤の散布回数は最小限に抑える。

4. ナシヒメシンクイ

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|----------|------|
| 平年並 | 平年並～やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

6月下旬現在，被害果は認めず平年並である。
フェロモントラップへの誘殺数は，県予察ほ(笠間市)ではやや多く，小美玉市，石岡市，土浦市では平年並からやや少ない発生である。
気象予報によると，向こう1か月の気温は平年並か高いと予想され，発生に適した条件である。

[防除上注意すべき事項]

被害果を見つけた場合は，土中深く埋めるなど速やかに処分して，次世代による被害を防ぐ。
防除は7月中旬に行う。

ナシ，カキ

1. コナカイガラムシ類

[予報内容]

| 発生時期 | 発 生 量 | 発生地域 |
|------|-------|------|
| - | やや多い | 県下全域 |

[予報の根拠]

6月下旬現在，ナシ，カキでコナカイガラムシ類の発生が確認されている。

[防除上注意すべき事項]

樹皮の隙間，枝の切り口や，新鞘の付け根等をよく観察し，見つけたら柔らかいブラシ等でこすり落とす。

果樹共通

1. カメムシ類

[予報内容]

| 発生時期 | 発生量 | 発生地域 |
|------|------------------|------|
| - | やや多い (越冬世代成虫) | 県下全域 |

[予報の根拠]

6月下旬現在，被害果は認めず平年並である。

チャバネアオカメムシの予察灯（かすみがうら市）への誘殺数は平年よりやや多い。

本年2月の山林での越冬調査の結果，越冬成虫はやや多かった。

[防除上注意すべき事項]

梅雨明け後，夜温が高くなると活動が盛んになり，果樹園へ飛来すると予想されるので，このような場合は発生に注意する。

薬剤散布は，カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。薬剤散布量は，10a 当たり 300 リットルを目安にし，かけむらのないよう丁寧に散布する。

【その他の病害虫】

| 作物 | 病害虫名 | 発生予想 | 発生概況及び注意すべき事項 |
|--------|----------|-----------------------|--|
| 水 稲 | 紋枯病 | 発生量：平年並 | 6月下旬現在発生は少ないが，7月は発生を助長する気象と予想されている。 |
| | 稲こうじ病 | 発生量：- | 穂ばらみ期～出穂期にかけて低温で降雨が多いと発生が多い。 |
| | イネドロオイムシ | 発生量：- | 6月下旬現在，幼虫の食害が続いている圃場があるが7月には終息する。 |
| | ニカメイガ | 発生量：- | 近年，発生量は増加傾向にある。現在，心枯れの目立つ圃場では，8月上旬～中旬に防除を行う。 |
| サツマイモ | ナカジロシタバ | 発生時期：やや早い 発生量：やや多い | 6月下旬現在，平年並～やや多い発生である。 |
| ナシ | 輪紋病 | 発生量：平年並 | 4月下旬調査時，いぼ皮病斑の発生は認めず平年並であった。 |
| | アブラムシ類 | 発生量：平年並 | 6月下旬現在，やや少ない発生である。 |

| 作物 | 病害虫名 | 発生予想 | 発生概況及び注意すべき事項 |
|-------|-----------------|------------------|--|
| ブドウ | べと病 | 発生量：平年並 | 6月下旬現在，一部で花穂での発生を認めたと，平年並である。 |
| | 晩腐病 | 発生量：平年並 | 6月下旬現在，発生を認めず平年並である。袋かけ前の防除を徹底する。 |
| カキ | 落葉病類 | 発生量：平年並 | 6月下旬現在，発生を認めず平年並である。 |
| クリ | モモノゴマダ ラノメイガ | 発生量：平年並 | 6月下旬現在，予察灯（笠間市，かすみがうら市）への誘殺数は，平年並である。「神峰」は，モモノゴマダラノメイガの被害が発生しやすいので特に注意する。 |
| 夏ネギ | べと病 | 発生量：やや多い | 6月下旬現在，多い発生である。向こう1か月の気象予報によると降水量は少なく，気温も平年並から高いと予想され，発生を助長する条件ではない。 |
| 夏秋ナス | ミカンキイロ アザミウマ | 発生量：やや多い | 6月下旬現在，やや多い発生である。 |
| | マメハモグリ バエ | 発生量：平年並～ やや多い | 6月下旬現在，平年並からやや多い発生である。 |
| 抑制トマト | 黄化葉巻病 | 発生量： | 育苗時か定植時には粒剤を施用し，ハウスの開口部には0.4mm目合い以下の防虫ネットを設置し，侵入を防止する。なお防虫ネット設置時には遮光資材を設置する等，暑熱対策も考慮する。（平成20年5月30日発表病害虫情報 No.4，p.8病害虫ミニ情報参照） |

平成20年度農薬危害防止運動実施中

農林水産省・厚生労働省・都道府県共催

農薬を使用するときは...

農薬ラベルを確認！

周辺への飛散に注意！

マスク，手袋，防除衣を着用！

農薬は鍵のかかる場所で保管しましょう！

7月以降に発生する水稲病害虫の防除について

水稲に発生する主要な病害虫には、いもち病、斑点米カメムシ類、イネツトムシなどがあり、いずれも十分な留意が必要です。

病害虫のおよその発生時期および防除時期を下記にしめします。年次により発生時期・発生量が変動するので、水田をよく観察して病害虫の発生状況にあわせた効果的な防除を行って下さい。

発生消長と防除の概要

本年の発生状況および防除対策については、今月の予報「注意すべき病害虫」または予報8月号を参照して下さい。

- 1) いもち病：葉いもちは6月下旬から発生し始め、7月下旬にピークとなる。梅雨明けが遅い場合には病勢が進展し、出穂期に降雨が続いた場合は穂いもちが多くなる。穂いもちの防除は、穂ばらみ末期～穂揃期に行う。粒剤を使用する場合は出穂の10日前までに散布する。
- 2) 斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ)：出穂とともに成虫が飛来し、イネの葉や穂に産卵し、ふ化した幼虫が収穫期まで穂を加害する。防除は成虫が飛来する出穂期～穂揃期および幼虫が発生する乳熟期～糊熟期に行う。
- 3) イネツトムシ：幼虫は6月下旬～7月中旬および7月下旬～8月中旬に発生し、葉を食害する。7月下旬から発生する幼虫による被害が大きい。防除は7月6半旬～8月1半旬に行う。
- 4) ニカメイガ：第1世代幼虫による被害は心枯れ茎、第2世代幼虫による被害は白穂となって現れる。第2世代幼虫を対象とする防除は、8月上旬～中旬に行う。

水稲において近年問題となっている病害虫の発生と防除時期のめやす(7月以降)

| | 7月 | | | 8月 | | | 9月 | | |
|---------|----------|----------|-----------|-----------|--------|-------|----|----------|---------------|
| | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 |
| イネの生育 | | | | 出穂 | 乳熟 | 糊熟 | | | 成熟 |
| 発生消長と被害 | いもち病 | | 葉いもち発生ピーク | 穂いもち感染時期 | | | | | |
| | クモヘリカメムシ | イネ科雑草に生息 | | 成虫飛来ピーク | | 幼虫発生期 | | | |
| | | | | 多発水田では青立ち | | 玄米加害 | | | |
| | イネツトムシ | 第1世代幼虫 | | 第2世代幼虫 | | | | | |
| | | | | 食害のピーク | | | | | |
| ニカメイガ | | 第1世代幼虫 | | | 第2世代幼虫 | | | ワラ内で幼虫越冬 | |
| | | 心枯れ茎 | | | 白穂 | | | | |
| 防除 | 葉いもち | 乳剤等 | | | | | | | |
| | 穂いもち | 粒剤 | | 乳剤等 | | | | | |
| | クモヘリカメムシ | イネ科雑草を除草 | | 乳剤等 | | 乳剤等 | | | |
| | イネツトムシ | | | 乳剤等 | | | | | |
| | ニカメイガ | | | | 乳剤等 | | | | 収穫終了後はワラをすき込む |

注1) 防除時期は平年の発生をもとにしためやすなので、病害虫発生予報を参考に、水田をよく観察して防除を行う。

注2) 5月上中旬移植、中生品種の場合。

トマト黄化葉巻病について

トマト黄化葉巻病は、平成8年に国内で初めて発生が確認されて以来、急速に発生地域が拡大し、平成20年6月現在、福島県以南の32都府県で発生が確認されています。本県でも平成18年に初めて確認され、その後県内全域に発生が広がりつつあります。本病はトマトを中心に大きな被害をもたらしますので、媒介虫のタバココナジラミの防除を徹底することが重要となります。(平成20年5月30日発表病害虫情報No4 参照)

【トマト黄化葉巻病の特徴】

本病はトマト黄化葉巻ウイルスにより発病します。はじめ上位葉の縁が退緑しながら葉巻き症状となり、その後に葉脈間が黄化、縮葉します。病状が進むと、頂部の節間が詰まって密生したようになり、株の上部が黄化、萎縮します。また発病前に着果した果実は正常に肥大しますが、発病後は開花しても結実しないことが多くなります。本病はトマト以外にも数種類の植物に感染することがわかっていますが、症状が現れるのはトマト、ミニトマト、トルコギキョウです。

本ウイルスはタバココナジラミ類のみが媒介します。タバココナジラミ類は、発病している株の汁液からウイルスを獲得し、死ぬまで伝搬します。

【防除のポイント】

本病を媒介するタバココナジラミ類の防除と、伝染源や飛来源の除去が重要です。

1) タバココナジラミ類をハウスに入れない

ハウスの開口部に防虫ネット(0.4mm目合い)を設置し、タバココナジラミ類のハウス内への飛び込みを防止します。なお0.4mm目合いの防虫ネットを設置した場合、ハウス内の温度が高くなることが予想されるので、ダクト通風やサイドの開閉、遮光資材の利用等の対策を行なって下さい。その他に光反射マルチやUVカットフィルムの設置も、飛び込み防止に効果があります。

また感染した苗を持ち込むと被害が甚大となりますので、育苗時は特にタバココナジラミ類の防除を徹底して下さい。

2) タバココナジラミ類をハウス内で増やさない

定植時や育苗時には殺虫剤(粒剤)を施用して初期防除に努め、定植以降も発生が見られたら薬剤散布を実施して下さい。なお、散布にあたっては、抵抗性の発達を抑えるため、同一系統薬剤の連続散布は行わないようにします。また黄色粘着板の設置はタバココナジラミ類の発生状況を把握するのに有効です。

3) タバココナジラミ類をハウス外に出さない

栽培期間中の発生量が多いと野外へ飛び出すタバココナジラミ類も多くなるので、栽培終期まで防除を行って下さい。また栽培終了時には、ハウスの蒸しこみを行い、タバココナジラミ類を確実に死滅させ、野外に出さないようにしましょう。蒸しこみ作業は、トマトの株元を切断するか抜き取る等の処理を行った後にハウスを密閉し、目安としてハウス内温度が40℃を超える期間が連続5日以上必要となります。

4) ウイルス伝染源の処分とタバココナジラミ類生息場の除去

発病が認められた株は、感染源となるため早期に抜き取り、ビニール袋等に入れて密封し、株を腐らせてから処分して下さい。また作物の残さ置き場等で自生している野良生えトマトや、露地で栽培されている家庭菜園のトマト等も、本病の伝染源となることがありますので注意して下さい。またタバココナジラミ類の生息場となるハウス内外の雑草の除去も重要です。

本病の防除は、産地全体で対策にあたることが重要です。なお近年、本病の耐病性品種も市販されていますが、これらの品種は発病程度を軽減するもののウイルスには感染し、症状がひどい場合は発病してしまいます。このため耐病性品種を導入しても、従来の品種と同様に防除対策を十分に行うことが必要です。

．今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 6月28日から7月27日)

気象庁(6月27日 発表)

< 向こう1か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率(%) >

[確率]

| 要素 | 予報対象地域 | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) |
|------|--------|---------|-----|--------|
| 気温 | 関東甲信全域 | 20 | 40 | 40 |
| 降水量 | 関東甲信全域 | 40 | 30 | 30 |
| 日照時間 | 関東甲信全域 | 30 | 30 | 40 |

[概要]

天気は，前半は平年と同様に曇りや雨の日が多く，後半は平年に比べ晴れの日が多いでしょう。向こう1か月の平均気温は，平年並または高い確率ともに40%です。

< 1週目の予報 > 6月28日(土曜日)から7月4日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並

< 2週目の予報 > 7月5日(土曜日)から7月11日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い

< 3週目から4週目の予報 > 7月12日(土曜日)から7月25日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い

．テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために，病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029(226)5321

7月上旬 ナシ黒星病とトマト黄化葉巻病について

7月下旬 水稻のいもち病と斑点米カメムシ類の対策について

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し，適用作物，使用方法，注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には，周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず，良く洗浄しましょう。